

# NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 2 LESSON 3 授業例①

T.T. 先生

## 指導計画表

(全 10 時間)

| 時間 | 学習内容・主な活動   |
|----|---|
| 事前 | Pair work (3 時間程度)  |
| 1  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Pair work (be going to)</li> <li>■ will を使ったの interaction</li> <li>■ Get Part 1</li> <li>・ oral introduction</li> <li>・ 読み取り活動→内容確認</li> <li>・ 新出単語の導入</li> </ul>  |
| 2  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Pair work (be going to)</li> <li>■ will を使ったの interaction</li> <li>■ Get Part 1</li> <li>・ 単語の練習</li> <li>・ レッスンテーマの導入</li> </ul>  |
| 3  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Pair work (be going to)</li> <li>■ will を使ったの interaction</li> <li>■ Get Part 2</li> <li>・ oral introduction</li> <li>・ 聞き取り活動→内容確認</li> <li>・ 新出単語の導入, 音読練習</li> </ul>  |
| 4  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Pair work (be going to)</li> <li>■ will を使ったの interaction</li> <li>■ Get Part 2</li> <li>・ 単語の練習, 内容の確認</li> <li>・ 音読練習</li> </ul>   |
| 5  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Pair work (be going to)</li> <li>■ will を使ったの interaction</li> <li>■ Get Part 2</li> <li>・ 単語の練習, 音読練習</li> <li>■ Get Part 3</li> <li>・ oral introduction (含, 新出単語導入)</li> <li>・ 聞き取り活動→内容確認</li> <li>・ 新出単語の確認</li> </ul> |

| 時間 | 学習内容・主な活動   |
|----|---|
| 6  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Pair work (be going to)</li> <li>■ will を使ったの interaction</li> <li>■ Get Part 3</li> <li>・ 単語の練習, 内容の確認</li> <li>・ 音読練習</li> </ul>   |
| 7  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Pair work (be going to)</li> <li>■ will を使ったの interaction</li> <li>■ Get Part 3</li> <li>単語の練習, 音読練習</li> <li>■ USE Read</li> <li>・ oral introduction</li> <li>・ ワークシート問題 1, 2</li> <li>・ 新出単語の導入</li> </ul> |
| 8  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Pair work (be going to)</li> <li>■ will を使ったの interaction</li> <li>■ USE Read</li> <li>・ 単語の練習</li> <li>・ ワークシート問題 3, 4</li> <li>・ 注意すべき表現の確認</li> </ul>   |
| 9  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Pair work (be going to)</li> <li>■ will を使ったの interaction</li> <li>■ USE Read</li> <li>・ 単語と表現の復習</li> <li>・ ワークシート問題 5</li> <li>・ Summary</li> <li>■ USE Listen</li> </ul>                                  |
| 10 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 文法の要点</li> <li>■ short essay</li> </ul>  |
| 事後 | 後日, reporting 活動  |

## 実践例

### 1. 基本的な授業に対する考え方

日頃の授業を構成する上で、私が常に念頭に置いているのは「いかに繰り返すか」という当たり前のことです。学習事項を自分の言葉として発話できる段階にまで高めるためには、気が遠くなるほどの繰り返しが必要です。文型等を意識せずとも口をつけて出てくるようになった表現しか、実際のコミュニケーションの場では生きてきません。授業が週4時間になったとはいえ、やはり時数は限られています。そこで、大雑把に言うくと、「1回30分かけて教える（練習する）のならば、5分で構わないので6回に分けて繰り返す」という考え方で授業を構成しています。私の場合、そのベースの活動として位置づけているのがPair workです。これは東京都立両国高等学校附属中学校の杉本薫先生から教えていただいた実践です。簡単なGuess workで、ターゲットの疑問文を使ってひたすら交互に質問し合い、相手の答えを当てる活動です。文型が変わってもルールはほぼ同じであるため、いちいち説明する必要はなく、5分程度で取り組むことができます。題材を変えて同じ文型を何度も繰り返し、一定期間が経過したら次の文型に変えて、という形でほぼ毎時間実施しています。これにより1回の授業で勝負する必要がなくなります。最初は紹介程度にとどめ、2回目以降に何となく使い方が見えてきて、後はひたすら繰り返す中で定着していきます。そして最後は考えなくても口をつけて出てくる段階にまで高めることができます。もちろん新しい文型に入る際には、簡単に導入を行いますが、「こんな感じの意味かな？」というのがぼやっと見えていれば十分です。細かい説明は、十分に言えるようになってからでないと意味がありません。

### 2. 本レッスンのとらえ方

本レッスンは、文法事項ではwillとbe going to、接続詞のthatが新出項目に当たり、本文は地球環境がテーマとなっています。未来表現については

willの方が生徒にとって理解しやすく定着も早いと思われませんが、自分の計画について話すときにはbe going toを用いることの方が多いです。したがって、活動のしやすさと定着までにかかる時間を考え、be going toから導入を行いました。

教科書本文の扱いについては、レッスンごとの特徴によって変えています。本文のテーマを前面に押し出し、本文の指導に絡めて文法事項を指導していくレッスンもありますが、本レッスンでは地球環境がテーマとなっており、直接的にここで扱われている文法事項との関連が薄いため、文法事項の指導と教科書本文の指導を分けて考え、同時進行で進めました。

### 3. 実践事例（文法項目）

前述したとおり、文法事項についてはbe going toから入りました。と言っても、特に大がかりな導入をしたわけではなく、レッスンに入る前に、帯活動的に3回程度pair workをやっておいただけです。内容はその日のテレビ番組表を用い、Are you going toで今晚見る予定の番組を当てるという活動です。準備は簡単で、毎朝通勤途中に駅の売店で英字新聞を購入し、そのテレビ欄を印刷するだけです。あまり番組数が多すぎるといつまでも当たらないので、夜7時から11時までの部分のみ印刷します。その中から自分が見ようと思っている番組を2つ決めさせ（ゲームのためなので、本当かどうかは問いません）、3分間で交互に質問し合うだけです。番組数を絞り込んだとはいえ、それでもたくさんの候補があるので、時間内に終わらせようと、生徒は自然とスピードを意識して質問します。使う文もターゲットに限られているので、3分間ではあっても相当な回数を繰り返すこととなります。3日目ぐらになると、口でAre you going toと言いながら、頭では「どの番組かな」と考え始めます。文型を意識しなくても無意識にターゲットセンテンスが口をつけて出てくるようになると、自然とchatなど他の活動の中でも使えるようになってきます。「いきなり

疑問文から？」と思われるかもしれませんが、この前の時間まで一般動詞過去形の練習として、前日のテレビ欄を使って Did you watch の練習を繰り返しています。同じ活動であるためやり方に戸惑いはありませんし、繰り返す回数が多いので十分に定着します。また、配られる番組表が前日のものから今晚のものに変わった時点で、生徒は何を言わんとしているのかを察してくれるため、特に be going to に触れずとも意味を理解してくれます。このようにレッスンに入る前に 3 回程度行っておき、「未来」について何となくつかませておきます。その後も毎時間 pair work は続きます。1 回 5 分ですし、レッスンを通して 10 回は行えるので、レッスン終了時には完全に定着します。また、pair work 後に interaction を通して I'm going to を言わせたり、生徒同士で本当に見る予定の番組について chat させたり、またそこで得た情報を report させたり writing につなげたりと、徐々にレベルアップさせました。そして LESSON 3 に入ってから、同時進行で will の指導も行います。ただこれも特に大がかりに何かを行うのではなく、Pair work で使うシートの裏面に、せっかく購入した英字新聞に掲載されている weather report を印刷しておくだけです。それを見ながら、

T: It will be sunny in Tokyo tomorrow. How will the weather be in Osaka tomorrow?

S: It's cloudy...

T: It will be ...

S: It will be cloudy in Osaka tomorrow.

T: Will it be rainy in Sapporo, S2?

このように interaction を通して少しずつ口慣らしを行い、これも pair work 後に毎日数分ずつ行うことで、十分にレッスン内で定着をはかることができます。

このように、文法事項については状況設定により細かい文法説明を行わず、繰り返すことで自然に定着していくことが理想だと考えています。そもそも板書をしての文法説明などは、まだその項目を学習したての者に行っても、完全に教師の自己満足で終わるケースが多く、よくわからなくてもとにかく使い続けさせる中で十分に言える状態を作り、十分に定着してから説明してあげることで初めて生徒の心にストンと落ちてくるのではないかと思います。

ですから、細かい説明などはレッスンの終わりに簡単に触れてあげる程度でよいのかと思います。ただ接続詞 that については、状況設定の難しさもあり、理解させるのにあまり回りくどく時間をかけるよりも、サラッと説明してしまってから数多くの用例に触れさせる方が効果的だと感じています。今回私は Listening による歌詞の穴埋め形式で that を含む文の意味について考えさせました。使用した楽曲は、Avril Lavigne の "Girl Friend" です。この歌の中には、省略されたものも含め、接続詞 that を含む文が延べ十数回出てきます。速すぎて聞き取れない場合は、Acoustic Version もあるので、そちらを使用することも可能です。ただ一カ所不適切な語が登場するので、そこは\*\*\*等で伏せ字にしておく等の配慮も必要です。多くの生徒たちにとって一度は聞いたことのある歌なので、穴埋めをしながら、歌詞の前後関係をヒントにして見事に意味を類推していきました。また、文の登場回数も多いので、穴埋めが終わった段階では、ほぼ that の使い方をつかんでいます。後は練習問題等に多く取り組みました。ただ完全な定着には時間がかかるので、このレッスンの中だけと言うよりは、事あるごとに、

T: What do you think about it?

S: I think it's...

などとやりとりすることで、意識的に繰り返しの場面を作り、1 年ぐらいのスパンで定着をはかった方がよいのではないかと思います。

#### 4. 実践事例（教科書本文）

基本的な GET の進め方は以下の通りです。

- ・ 必要に応じて oral introduction
- ・ ポイントを示しての聞き取り、読み取り活動
- ・ 新出単語の確認と練習
- ・ 内容の確認
- ・ 音読練習

新出単語は、その語の意味がわかっていないと、聞き取り、読み取り活動に支障が出る語のみ最初に導入しておきます。このレッスンの、GET Part 1 ではポスターが題材となっており、Part 2 と 3 は dialog となっています。そのため、Part 1 については情報を読み取る活動、Part 2,3 では聞き取る活動を行いました。

Part 1 で扱われている単語は類推可能なものばかりなので、いきなりポスターを見せ、書かれている情報について生徒に質問しながら確認していききました。

1. 何のポスター？
2. 日時と場所は？
3. 参加者にはどんな人が？

質問は生徒のレベルによって、英語で行っても日本語で行ってもよいと思われれます。また、ここでの will を含んだ文は、内容的にはさほど重要ではないので、あまりこだわりませんでした。ただし、be going to ではなく will が使われる典型的な場面なので、レッスンの最後のまとめの段階でもう一度触れています。またここはポスターなので、読み取るべき情報も少なく、reading 活動にも適さないなので、レッスン全体を通してのテーマに関する導入として扱いました。

1. この会議ではどんな内容について話すのだろうか？
2. 地球環境において問題になっていることで知っていることは？

このような質問を通して生徒の背景的知識を活性化させることで、これから語られる環境問題についての心の準備をさせました。また Part 3 に出てくる global warming 等の語もここで導入しました。

Part 2 の新出単語も数が少なく、意味がわかっていないと支障が出る語もないので、状況の説明と Listening point を示した後に聞き取り活動を行いました。

1. 久美は何時に会議を抜けるつもりか？
2. それはなぜか？
3. ポールが久美のためにしてあげることは？

Part 3 では、新出単語が意味をとらえる上で重要な役割を果たしているため、最初に新出単語の導入を行いました。ただ Listening Point としては「ナシードが会議で発表するテーマは？」程度です。

そしていよいよ USE READ に入ります。通常は 2 時間扱いですが、様々な活動を同時に行っているため、時間を考え 3 時間扱いとしました。ここでもポ

イントは「繰り返し」です。Reading task に取り組む中で、自然と何度も何度も繰り返して読むことが求められ、次第に概要から詳細へと理解が進むことが理想です。教科書に掲載されている task は非常に考えて作成されているので、基本はそれを元にししながら、生徒の状況によって補足したり省略したりしています。実際に授業で使ったハンドアウトを資料として別に提示します（資料 1）。実際には以下の手順で行いました。

#### 4. まとめ

文法事項については、最後のまとめの時間を使い、改めて使い方や意味等を確認しました。しかしこの段階では使い方自体はほぼ定着していたため、本文の中で登場する will と be going to を拾い集めることで、その違いについて確認する作業が中心となりました。また、自己表現活動として「夏休みの予定」をテーマに、10 程度の short essay を書かせました。時間的に余裕があれば speech につなげることもできますが、夏休み前で時数が足りなかったため、次の時間に、書かせた essay を班で回し読みさせ、その内容について reporting させる活動を行ってこのレッスンのまとめとしました。また今回は reading を中心に考えたので上記のような取り組みになりましたが、speaking 重視であれば、班内で speech させ、それをメモしたものを別のメンバーに reproduction の要領で伝える等のやり方も考えられるでしょう。

本実践は、教科書がリニューアルされた平成 14 年度の 1 学期に実施したものであったため、まだまだ改善の余地のあるものだと感じています。本来であれば、地球環境というせつかくの大きなテーマを扱っているレッスンなので、そのテーマについてもう少し焦点を当てた取り組みができたのではないかと考えています。その点について、ぜひ実践がおりの方にはご紹介いただければ幸いです。